

平成26年8月7日

意見書提出について

NPO 法人日本プロフェッショナルダンス競技連盟

会長 毛塚鉄雄
副会長 馬場明男



風営法第2条1項4号についての意見書提出の件、下記の通り簡条書きにて意見を述べさせていただきます。

記

1 団体の設立について

JCF 競技連盟設立年月日・・・平成 9年3月

NPO法人設立年月日・・・平成17年3月

(会員数の内訳)

会員在住範囲・・・北海道・東北・東部・中部・西部・九州

- | | |
|------------------|--------|
| 1 役員会員数・・・(役員) | 230人 |
| 2 プロ会員数・・・(競技選手) | 600人 |
| 3 アマ会員数・・・(競技選手) | 3,260人 |

合計人数 4,090

2 社交ダンスが風営法で規制された歴史

昭和23年に社交ダンスは風営法にて規制されました。理由は進駐軍専用ホールキャバレー・ダンスホール等にて踊るダンスは社交ダンスではなく、チークダンスが主流であって、当時の日本の社会風土、生活習慣からして男女が手をつないで町を歩く事さえ許しがたい国民的な考えがありましたので致し方ない事であったと思います。

3 日本と諸外国とのダンス文化の違い

先生は、昭和38年度と昭和52年度「海外で最もダンス普及に貢献された人」と云う事で英国の王室エディンバラ公よりカールアラントロフィーが授与され、そのあと盛大な舞踏会が開催されました。当日はヨーロッパをはじめ諸外国から著名なダンス人が招待され、先生は日本とヨーロッパ諸外国とのダンス文化の違いをつくづく身に沁みて感じたと申され、日本のダンス界が国民的な支持を得られる様、業界をリードして行きたいと語られました

4 社交ダンスが正しく発展するために (先生の挨拶文)

競技団体ニュー・ダンシングブラザー創立50周年記念のご挨拶の一文を引用致します。我国の社交ダンスが今日の隆盛を見、又マスコミや映像メディアが積極的に取材し、取り上げる今日を、50年前、誰が想像した事であろう。当時、敗戦後の混乱と貧困の世相の中、社交ダンスは、娯楽がなく荒廃した日本の社会風土の中で、爆発的なブームとなって流行したのである。そのような時勢に、社交ダンスの高度な技術を、ダンス振興の前面に打ち出し、技術団体「ダンシング・ブラザーズ」が誕生したのである。創設者は云うまでもなく、当時の若き風雲児、「先生」君であった。今思えば、当時の社交ダンスに対する風評や社会的な評価からして、競技ダンスを主流に、業界をリードした先生の判断は正しかったと、万人が彼の先見性を高く評価するゆえんである。

5 学生ダンス競技大会の歴史

昭和23年当初早慶戦(会場サンケイホール)からスタート致しました学生競技会が、現在東京6大学戦・東都大学戦・東部日本戦そして関西・東北・九州地区の学生選手権・そして北海道から、九州までの全日本学生ダンス選手権大会が、7月大阪と、12月東京とで年2回開催されるまでに発展致しました。東京オリンピックが開催されました昭和39年前後は学生ダンス選手権のメイン会場は、後樂園ホールでした。当時学生ダンス競技連盟の会長であらせられた先生は、競技大会の挨拶の中で「ダンスは楽しくなければならぬ。しかし、楽しさにおぼれてはならない、厳しい練習の過程において互いに相手を理解し、尊重することが大事だ」と述べられ私自身大変感動致しました。

当時の学生の競技選手は、卒業してもダンスを職業とするものは皆無でした。あれから半世紀以上が過ぎた今日、学生競技で活躍された選手が、プロの競技教師として教室に勤務するようになり、学生諸君からも社会的に認知される様になりました。

6 小中学生のダンス競技

文部科学省では5年前から中学校の必須授業としてダンスを取り入れられました。そして毎年小・中・高校生ボールルームダンス・全日本チャンピオンシップが、文部科学省の後援で開催されています。親御さんご家族揃っての応援は楽しい風景です。

7 皇室とダンス

昭和39年、東京オリンピックの前後、皇室ではノルウエーから教師を招き、社交ダンスを習得され当時のグラフに練習風景が掲載されました。

天皇皇后両陛下は昨年4月12日「国際福祉協会」の慈善晩餐会でワルツ・タンゴ・スロー等正確なステップで4曲を踊られ、「会場は拍手喝采スタンディングオベーションで、思わず感涙した記者もいた」との報道がなされました。尚、陛下は皇太子時代の昭和28年、エリザベス女王戴冠式で英国を訪問される際ダンスの特訓を受け舞踏歴は長く、昭和40年の前半白黒テレビの時代に両陛下のワルツを踊る姿を拝見し、その品格ある踏風は今でも私の脳裏に消えることなく残っております。

昭和40年、三笠宮殿下は東京プリンスホテルで開催されましたダンスの会に初めて参加されました。それ以後熱心に社交ダンスを習得され、御自身のダンスをご披露され、又ご指導もされますまで上達されました。

JCF（会長毛塚鉄雄）が提案致しましたプリンスミカサアワードでは国内、海外の、ダンスの発展に貢献した指導者、教師、競技選手を殿下自ら表彰されました。又毎年開催されましたNHK杯インターナショナルダンス選手権大会名誉総裁として海外の選手を労われました。そして世界のダンスの指導者、競技選手が一堂に会する全英ダンス選手権大会にも出席され世界のダンス人からも殿下の人柄を高く評価され尊敬の念を持って迎えられました。

8 意見書提出につきJCF日本プロフェッショナルダンス競技連盟の意見

戦後70年社交ダンスに対する国民世論も大変変わって参りました。ノーベル賞・大統領就任式の後、必ず舞踏会が開催されます。この事も含め以前警察庁担当者には戦後70年の日本ダンスの歩んで参りました様々な歴史をお話し、熱心に聞き入って頂きました。

文部科学省も生涯スポーツとして高齢者も含め国民的な健康スポーツとして奨励しております。

私共も、此の業界に携わる者として、苦節70年、先輩たちが築き残した正しい社交ダンスの遺産を大事にし育てていきたいと決意しております。

JCF日本プロフェッショナルダンス競技連盟は団体の意見として風営法第2条第1項第4号を削除して頂く様提案致します。